

# 生徒会通信 第10号

## サッカー部史上初の昼夜合同チーム3位に輝く!

10月23日(土) 令和3年度愛知県高等学校定時制・通信制秋季体育大会サッカー競技がグリーングラウンド刈谷で行われた。この大会に開校以来初、昼間・夜間合同チームで挑んだ。1回戦は、総体で準優勝した市立豊橋高校との対戦となった。総合力で勝る相手チームに合同チームと感じさせない連携でピンチをしのいでいく。4M石川は圧倒的なテクニックでDFを翻弄していた。両校1点を取り合った後の後半、2M藤井が勝ち越し弾を決める。そのまま逃げ切りたい合同チームだったが、終了間近にDFの隙を突かれ失点してしまう。その後、両校決定的なチャンスもなく同点のまま試合終了のホイッスルが鳴った。延長戦は、互いにゴールネットを揺らすことができず、決着はPK戦に委ねられた。多くの場数を踏んでいる豊橋高校は、プレッシャーに、負けることなく1本目・2本目と成功していく。4M中瀬の好セーブもあったが1-3で敗退した。



3位決定戦は、PK戦後30分で始まった。体力・気持ちともに難しい状況での試合となり、厳しい試合になるのではと考えられたが、試合開始のホイッスル後その不安は払しょくされる。昼夜4年生が、「悔いのない試合にしたい」と疲れを感じさせない動きをみせる。その動きに刺激を受けたのか、2M藤井も足をつりながら懸命に走り、チームに貢献する。終わってみれば2-0の完勝。試合後、握手した4M石川・中瀬は晴れやかでやり切った表情をしていた。4年間の集大成となったのだろう。

4年生2名、2年生1名が出場した本大会、4年生が引退後は部員が1名となり更に苦しい状況となる。なんとか継続していくためにも今回の経験は大きい。合同チームとして来年の総体に出場するためには今大会で経験したことを忘れることなく、日々練習に取り組んでもらいたい。(文責：田舎片一司)

優勝した市立豊橋高校との対戦となった。総合力で勝る相手チームに合同チームと感じさせない連携でピンチをしのいでいく。4M石川は圧倒的なテクニックでDFを翻弄していた。両校1点を取り合った後の後半、2M藤井が勝ち越し弾を決める。そのまま逃げ切りたい合同チームだったが、終了間近にDFの隙を突かれ失点してしまう。その後、両校決定的なチャンスもなく同点のまま試合終了のホイッスルが鳴った。延長戦は、互いにゴールネットを揺らすことができず、決着はPK戦に委ねられた。多くの場数を踏んでいる豊橋高校は、プレッシャーに、負けることなく1本目・2本目と成功していく。4M中瀬の好セーブもあったが1-3で敗退した。



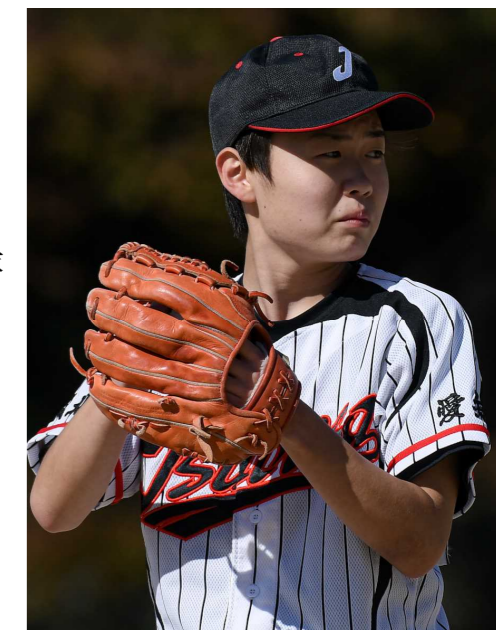
## 軟式野球部 秋季大会サヨナラ負けで準優勝!

10月23日(土) 稲永公園野球場

学校名	1	2	3	4	5	6	7	計
城北つばさ(夜)	0	0	0	2	0	2	0	4
刈谷東(昼)	0	0	0	1	2	0	2×	5

令和3年度愛知県高等学校定時制通信制秋季体育大会の軟式野球競技の決勝戦が行われ、本校は刈谷東高校昼間部と対戦した。

この日の先発は、公式戦初登板、初先発となる1年生の小松雷悟。初回から抜群のコントロールを武器に、打たせてとるピッチングで相手打線につけ入る隙を与えず、4回までを味方のエラーによる1失点と先発としての役目を十分に果たす。



先制したい打線は4回、先頭の2番小松が左越三塁打を放ち、チャンスメイクすると、続く3番米山快の内野ゴロを相手が野選し、思わぬ形で先制点が入る。その後、相手のバッテリーミスでさらに1点を加えるが、5回、疲れの見え始めた先発小松が先頭に死球を与え、1死後、味方のミスで2・3塁のピンチ迎える。ここでエース吉井涼太にスイッチするが、2死後から中前2点適時2塁打を打たれ、逆転を許す。



反撃したい打線は6回、先頭吉井が中前安打で出塁すると、盗塁とエラーで3塁へ進む。その後1死となるも、3番米山が左越適時2塁打を放ち、同点とすると、さらに4番水谷太智が左越適時2塁打を放ち、逆転に成功する。

このまま逃げ切りたい本校であったが、1点リードで迎えた最終回。吉井が先頭を味方のエラーで出塁させると、1死から死球と味方のエラーで同点とされてしまう。その後、2死とするも、死球を与えて満塁とすると、後続にフルカウントから痛恨の押し出し四球を与えて逆転を許し、サヨナラ負けで惜しくも準優勝に終わった。(文責：鈴木貴之)